

宮城県内における社会福祉法人による公益的な取り組み事例

法人名：社会福祉法人幸生会（泉クラシック）

事業名：かむり塾

① 取組の目的や背景、実施に至った経緯等

- ・名前の由来：七北田川上流この付近は、かむり川と呼ばれていたことから「かむり塾」と名付けた。
- ・この地域は、昔は工場がいくつもあって繁栄していたが、工場がなくなってからは人口が減り以前の繁栄が見られなくなった。
- ・社会福祉法人として、地域を再生したいと考え、福祉事業を展開することとして施設を建設した。また、「この地域に恩返ししたい、せっかくなので子どもたちの交流の場も作りたい。」と考えた。
- ・地域再生をするうえで 地区の活気を取り戻すには子どもたちの力が必要と考えた。
- ・地域の子どもたちは、バスの便数が少なく、バス停も遠いため、塾に通うのが大変で学習環境が厳しかったのでそれを補いたいと考えた。
- ・一方で、最近では田舎でも子どもたちはお年寄りたちと一緒に過ごしていない。共働き家庭も増えていて、両親が帰宅するまでの間子どもたちをお預かりして何かをしたい、と考えてスタートした。
- ・事業準備時期は、内部職員が講師をすることとし、担当職員が選ばれた。実際には業務を抱えながら講師を行うことが厳しいと判断し、外部に依頼することとなった。
- ・この地域には三つ小学校があるが、現在かむり塾を利用する子ども全員一つの小学校の生徒（最も近い小学校であり、他から申込がないという状況）

② 取組内容（詳細に）

- ・塾は週2回実施（水／15：00～17：00・金／16：00～18：00）
- ・施設の会議室を利用
- ・小学校前に集合、施設職員が車で迎えに行く。送迎は基本的に業務員が行うが、状況によっては他の職員が行うこともある。
- ・終了後は各家庭まで直接送っている。（暗くなる時間なので防犯の意味で直接家庭へ送っている。）
- ・現在の塾生／9名
- ・講師／全員地元在住の元教師3名（男性2名、女性1名）
塾長＋2名（年齢60～70代）
- ・体制／先生3名が話し合っってローテーションを組んでいる。
年間計画やカリキュラムなども全て先生方にお任せしている。
※学校に準じたレベルの計画やカリキュラムを作成している。
- ・塾生募集／地域へ新聞折り込みチラシで募集している。
- ・保護者等に対して、特に講師の経歴などは公表していない。
- ・対象は小学校4、5、6年生
- ・塾利用時に申込書を提出してもらい、記載内容で共稼ぎや一人親家庭という程度は分か

るが、世帯収入などの細かい家庭状況などは聞いていない。

- ・小学校との窓口は教頭先生。塾長の後輩であり、先輩がやっている事業であるため信頼してくれている。
- ・小学校からは行事等の予定をもらい、塾の予定と調整している。
- ・小学校との連携は大切。学校側から見た個々の生徒の変化を聞くことができる。学校の動きとかけ離れたことをするわけには行かないので、計画や方針などを確認しておくことも必要である。

《塾の一日の流れ》

- ・講師から事前に資料準備の指示を受け、事務所でコピー等教材の準備
- ・小学校へ迎えに行き塾生を塾へ連れてくる
- ・開始
- ・塾の進行は講師に全ておまかせ
- ・途中何度か休憩が入る
- ・職員は塾に常駐する（特に決められた業務があるわけではないが、管理責任という意味合いでも常駐するようにしている。普段は、塾の記録・生徒や講師とのコミュニケーション・教材等の準備などを行っている）。
- ・4，5，6年生が全員一緒に会議室で講義を受ける。
- ・一コマ目は宿題。講師は添削や指導を行う。
- ・二コマ目以降は学校の授業内容を受けて教科書をもとに授業。
- ・外で散策することや野外炊飯、季節に合わせた料理教室、拾ってきた石に絵を描いたり勉強以外の内容も盛り込んでいる。
- ・講師は連絡帳に生徒の様子を記入。
※連絡帳は毎回記入して保護者とやりとりしている。講師のコメントに対して保護者が自宅の様子や意見などを記入してくれている。（このあたりは保育園も運営している法人のノウハウが活かされていると感じた。）
- ・終了後、各塾生の自宅まで直接送る。
- ・講師は全て外部の方なので、法人として直接関わっているのは2名のみ。専任者はいない。

③ 取組の成果、効果

○塾の雰囲気

- ・わいわいとにぎやかな雰囲気、生徒たちは皆リラックスした様子でそれぞれの課題に取り組んでいた。講師や職員との関係も良好な印象であった。
- ・みな同じ学校なので仲良くやっている

○塾の成果（保護者へのアンケート結果から）

- ・活動時間：「2時間程度で良い」
- ・塾に入って良かったこと：「宿題や家庭学習をする時間がしっかりとれた。」「学校からまっすぐ自宅に帰るという生活から、塾へ通うことが加わり、生活にメリハリがついた。」「学習する意欲が出た。」「勉強する楽しみができた。」「(塾で)宿題を終え

てくるので充実している。」「楽しそうに帰ってくる。」

○特養利用者との交流等

- ・お年寄りとの交流は日常的に実施していないが、行事の時に塾生達に参加してもらっている。
- ・施設の中では子どもの声が普通に響いている雰囲気なのだが、居室までは声が届かないので、利用者は塾をやっているかどうかは気づかないと思われる。

○職員の意識の変化

- ・学校との交流ができるので、運動会や夏祭りなどへ行きやすくなった
- ・鹿踊・剣舞を塾生達が施設で披露してくれたり、お祭りの時に塾生達が踊る様子を利用者と一緒に見に行ったりと、地域との交流が自然と生まれるようになった。

→鹿踊・剣舞（ししおどり・けんばい）

県指定無形民俗文化財 剣舞は慶安 2 年(1649)、鹿踊は寛政 4 年(1792)に旧福岡村に伝えられたとされます。2 つの舞いは不即不離の関係にあり 1 対として伝承されてきました。かつては、お盆の先祖供養に各戸を踊り歩いたほか、村祭りなどでも踊られました。根白石地域で開催される祭りやイベントで披露されている。

『冠のふるさと伝承まつり』では福岡小学校生徒等による鹿踊・剣舞が披露される。

○費用等

- ・塾の利用にあたっては完全無料
- ・ケガのリスク等に備えて塾生に保険を掛けているが、保険料も全て法人負担
- ・講師料／1 時間 1 5 0 0 円 年間約 8 0 万 （有償ボランティア）
- ・主な費用は本部会計で計上（特に単独のサービス区分は設けていない）
- ・光熱費や資料印刷などは全て特養経費（特養の地域貢献としての考え）

④ アピールポイント

- ・やらなくてはいけないという強制的考えではなく、自主的に取り組むような姿勢を持ってもらえる。
- ・先生もリラックスして取り組んでももらえるような雰囲気作りを心掛けている。
- ・現役を引退された先生方にとっても地域への貢献を果たすことで充実したものになっているだろうと思われる。

⑤ その他

○先生が元教員でなかった場合はやらなかったのか？

→やっていたと思う。職員で教員免許を持っている者がいる。4 0 0 名程いる職員の中からある程度担当を考えていた。

○今後の方向性や展望など

- ・買い物難民（一人で買い物に行けないお年寄り）が増えている状況で、日中のデイサービス車輛をうまく使って農協と診療所などをまわれるような体制を作りたい。
- ・近隣法人や民生委員で地域の医療福祉関係の団体を作ろうという話になっているので、地域の買い物難民に対して何かをしたい。
- ・単独では困難なことも法人が複数集まればできるのではないかと考えている。